

ため池決壊の要因

ため池は、日頃から安全管理を行っています。想定を上回る大雨や地震により、堤防に亀裂や漏水が発生すると、弱くなった堤防が貯水に耐え切れずに決壊します。



大雨のとき

集中豪雨や長雨によって、ため池の水位が上昇すると、堤防にしみ込む水の量が増えるため、ため池決壊の危険性が高まります。また、流木などにより、ため池の洪水吐がふさがれてしまうと、堤防からの越流により、堤防が浸食され、決壊に至る恐れがさらに高まります。



大地震のとき

大地震では堤防に異常な力を受け、亀裂や漏水が生じ、強度低下により、水圧に耐えきれず決壊することがあります。

大地震直後に決壊しなくても、堤防が損傷している場合があります。その後の余震で決壊することがあるので注意が必要です。



避難時の防災情報

ため池の異常に気づいたらすぐに避難・連絡！

貝塚市役所	貝塚市消防本部	貝塚警察署
072-423-2151	072-422-0119	072-431-1234

気象情報の入手

ラジオやテレビ、インターネットなどで正確な情報をいち早く収集しましょう。周囲の様子に気を配り、少しでも不安に感じたら避難をするようにしましょう。

気象庁HP 警報・注意報などの気象情報は以下のホームページから確認することができます。
http://www.jma-net.go.jp/osaka/

おおさか防災ネット 登録して防災情報を確認しましょう。
<touroku@osaka-bousai.net>
に空メールして登録
※QRコードからメールを送信することも可能です。

地上デジタル放送テレビのdボタン 地デジ対応のテレビのリモコンのdボタンから、防災情報(避難準備・勧告・指示、開設避難所、降雨状況等)を確認しましょう。

避難情報の種類	とるべき避難行動
避難指示 (緊急)	緊急に避難して下さい。外が危険な場合は、屋内の高いところに緊急に避難して下さい。
避難勧告	速やかに避難して下さい。外が危険な場合は、屋内の高いところに避難して下さい。
避難準備・高齢者等避難開始	次に該当する方は、避難を開始して下さい。 お年寄りの方、体の不自由な方、小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方と、その支援をする方 なお、避難場所への避難が困難な場合は、近くの安全な場所に避難して下さい。それ以外の方については、気象情報に注意し危険だと思ったら早めに避難して下さい。

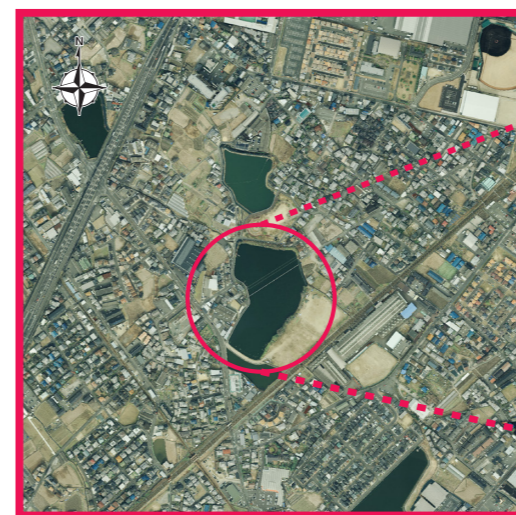
気象警報・注意報発表基準

大雨・洪水 注意報	大雨・洪水 警報	記録的短時間大雨情報	特別警報
雨によって引き起こされる災害のリスクを表面雨量指数・流域雨量指数で表現し、数値が基準へ達したかどうかにより注意報や警報を発表します。	発表基準の詳細な説明は右のQRコードにアクセス！	1時間雨量 100mm	数十年に一度の大雨が予想され、降水量が警報基準を大きく超えるような大雨

雨の降り方と降雨量

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 10mm以上～20mm未満	1時間雨量 20mm以上～30mm未満	1時間雨量 30mm以上～50mm未満	1時間雨量 50mm以上～80mm未満	1時間雨量 80mm以上
ザーザーと降る	どしゃぶり	バケツをひっくり返したように降る	滝のようにゴーゴーと降り続く	息苦しくなるような圧迫感恐怖を感じる

海塚大池ハザードマップ



海塚大池の断面イメージ (最大箇所)
満水位
0.9m
地盤高

貯水量	4.1万 m ³
満水面積	2.4ha
満水位-地盤高	0.9m

海塚大池は25m プール約85杯分もの貯水量があります。
(25m プールの貯水量約480 m³として換算)

ため池ハザードマップについて

このハザードマップは、大雨や地震などの災害によって、万が一、海塚大池が満水状態から決壊した場合に備え、地域の方々が安全に避難できるように作成したものです。ハザードマップには、海塚大池が決壊した場合に想定される浸水範囲や浸水深、到達時間などの災害情報と、避難所の位置等を記載しています。日ごろから浸水が発生しやすい場所や状況を把握して、避難するときには雨の降り方や気象情報、防災情報などに十分注意するようにしてください。なお、地図に示した浸水想定区域以外でも浸水が起こる可能性がありますので、正確な情報を入手して早めの避難を心掛けましょう。

海塚大池の耐震診断結果

海塚大池は、大阪府による耐震診断結果により、直下型地震動及び海溝型地震動(南海トラフ巨大地震)に対して耐震性能を有していることが確認されています。しかし、想定を超える大地震の発生など、万が一ため池が決壊した場合の避難について考えておくことが大切です。

ため池ハザードマップを受け取ったら

- 1. 事前に浸水範囲や浸水深などを家族で確認しておきましょう**
 - 自宅と浸水範囲、浸水深、浸水到達時間などを確認し、印をつけておきましょう。
 - 災害時に協力できるように、災害について家族や地域で話し合しましょう。
- 2. 避難所・避難経路を考えておきましょう**
 - 安全な避難所や避難経路などを事前に決めておきましょう。
 - 実際に避難経路を歩いて、移動時間を確認しておきましょう。
 - お年寄りや障がいのある方への補助内容を決めておきましょう。
- 3. 防災情報の入手先を確認しておきましょう**
 - ため池の堤防が決壊すると、短時間で洪水が襲ってくる可能性がありますので、日頃から防災情報の入手先を確認しておきましょう。
 - 「避難時の防災情報」をチェック！
- 4. 市の公表しているハザードマップもご覧ください**
 - 貝塚市では地震・津波・風水害(洪水・土砂災害)の防災情報を掲載した防災ガイドブックを発行しています。このハザードマップと合わせて活用し、いざという時に備えましょう。